



キャンパス・コンソーシアム函館
合同公開講座

函館学 2013

第5回講座 講義資料

函館とロシア 220年の交流史

倉田 有佳 ロシア極東連邦総合大学函館校 准教授

日時：平成 25 年 10 月 19 日（土）午後 1:30 ～ 3:00

会場：ホテル法華クラブ函館

主催：キャンパス・コンソーシアム函館

講師略歴

くらた ゆか

倉田 有佳

ロシア極東連邦総合大学函館校 准教授

静岡県生まれ。立教大学文学部史学科卒業、モスクワ大学大学院歴史学部（歴史博士）、在ウラジオストク日本国総領事館経済専門調査員を経て、2001年から函館市国際課（ロシア交流担当）に勤務しながら北海道大学大学院文学研究科歴史地域文化学専攻博士後期課程を修了（学術博士）。2007年以降、函館大谷短期大学、函館工業高等専門学校、ロシア極東国立（現・連邦）総合大学函館校で非常勤講師を務める。2013年4月から現職。

専門は日ロ交流史。「二つの大戦間のロシア人亡命者 一在京浜ロシア人学校と在京浜亡命ロシア人社会」『ロシア史研究』第62号(1998年)、「1930年代はじめのソ連極東から日本への脱出・漂着者」『地域史研究はこだて』第28号(1998年)、「ビリチとサハリン島一元流刑囚漁業家にとっての日露戦争」『日露戦争とサハリン島』（北大出版会、2011年）、「20世紀の在函館ロシア（ソ連）領事館」『ドラマチック・ロシア in Japan II』（生活ジャーナル、2012年）等。

また、Российская эмиграция в Японии между двумя мировыми войнам : динамика, численность и состав. " Acta Slavica Iaponica " No.14 (1996) , Slavic Research Center, Hokkaido University, (「二つの大戦間の在日亡命ロシア人：動静、数、構成」『Acta Slavica Iaponica』北海道大学スラブ研究センター発行、1996年) ; Лагерь русских военнопленных в Хироаки и факты из жизни Хрисанфа Платоновича Бирича// Известия Восточного Института Дальневосточного государственного университета (「弘前のロシア人捕虜収容所とフリサンフ・プラトノヴィチ・ビリチの生涯」『東洋大学紀要』極東国立総合大学発行、2010年) 等、ロシア語でも発表。

函館日ロ交流史研究会に所属し、主に20世紀以降の函館とロシアの交流史を研究中。

1 交流の黎明期

- ① 遣日使節アダム・ラクスマンの函館来航
- ② ゴロヴニン事件と高田屋嘉兵衛
- ③ プチャーチン提督の函館来航

※函館来航は偶発的

2 実質的な交流へ

※交流の柱：領事館・ハリストス正教会・ロシア病院

- ① 初代領事ゴシケーヴィチ着任。日本で最初のロシア領事館開設。
- ② 領事館は「北の地の文明開化」の推進役

・写真術・西洋医学の普及、常夜灯・晴雨計を箱館奉行に寄贈

③ 衰退期

- ・領事館焼失、ゴシケーヴィチ離任、ロシア病院焼失
- ・ロシア極東の海軍拠点の南下：ニコラエフスクからウラジオストクへ
- ・明治維新→東京にロシア公使館開設
- ・キリスト教解禁→ニコライは東京を拠点に宣教活動開始

3 露領漁業の勃興と発展の時代

① ロシア領事館の建設

・露領への出漁関連の各種事務を執る

② 函館からロシアへ、ロシアから函館へ

- ・函館商業学校生徒の浦潮訪問
- ・ニコラエフスクからの観光団、露語による函館案内発行

4 函館に暮らしたロシア人たち

- ① 旧教徒（宗教亡命者）
- ② 白系ロシア人（政治亡命者）

※身近にいたロシア人

5 冷戦時代の函館とソ連

- ① 市民交流
- ② 経済交流
- ③ ミグ 25 亡命事件

6 最近の函館とロシアの交流

① 姉妹都市交流

- ・ウラジオストク市
- ・ユジノサハリンスク市

② ロシア交流を支える柱

- ・ロシア極東連邦総合大学函館校
- ・在札幌ロシア連邦総領事館函館事務所
- ・市民団体（函館日ロ親善協会・日本ユーラシア協会函館地方支部・函館日ロ交流史研究会）